

5月の発生予報および防除上の注意事項

向こう1か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

沖縄群島

1 水稲(1期作)

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の防除対策

- a 4月の調査では被害圃場率は名護市が88.8%(37圃場中)、金武町が5%(20圃場中)であった。
- b 苗移植後は水深をできるだけ浅水(水深1cm以下)で管理する。
- c 餌や産卵場所となる水路周辺の雑草を除去する。
- d 貝及び卵塊を捕殺し貝密度を下げる。

2 さとうきび

黒穂病の防除対策

- a 4月の調査の結果、発生圃場率は28.9%で、被害株率は0.5%(前年1.6%、
平年1.9%)で平年よりやや少なかった。農林9号の発生圃場率は77.8%(9圃場
中)、その他の品種は13.8%(29圃場中)であった。
- b 生育初期は発病株の識別が容易で、抜き取り作業もしやすいので、早期発見・早期
防除に努める。
- c 胞子の飛散を避けるため、発病株は黒穂(鞭状体)の出現前に抜き取り処分する。
- d 黒穂がみられた場合は、早めに抜き取り処分する。
- e 発病の多い地域では株出しはなるべく避ける。
- f 発病の多い地域では、収穫後更新までの圃場放置が本病の発生源となるため、圃
場管理を兼ね、速やかに耕耘(ロータリー、砕土)する。

3 マンゴー

着果～果実肥大期の病害虫防除対策

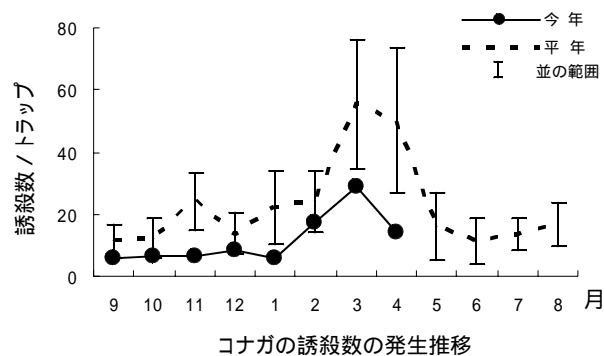
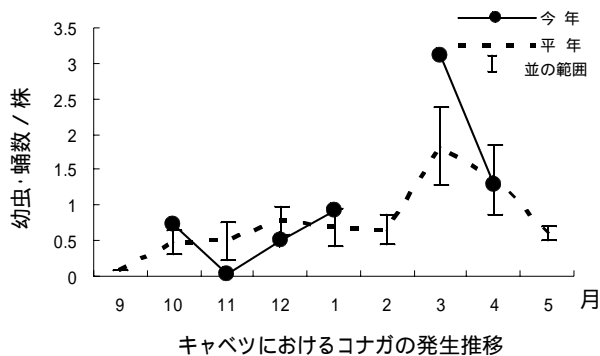
- a 4月中旬の調査の結果、炭そ病、チャノキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマの発
生が認められた。チャノキイロアザミウマについては一部の園で昨年より増加の傾向
にある。
- b 炭そ病に罹病した葉・花序等は除去し、施設外へ持ち出し処分する。
- c チャノキイロアザミウマの発生源となる不必要な新葉を除去し、ビニール袋に密閉し
て持ち出し処分する。
- d チャノキイロアザミウマは水に弱いので、晴れた日に灌水を兼ねて動噴で洗い流す
ことも密度を下げるのに有効である。
- e この時期から軸腐病も発生しやすいので、施設内の通気をよくするとともに、薬剤に
よる予防に努める。
- f チャノキイロアザミウマは薬剤抵抗性を発達しやすいことから、同系統薬剤の連用を
避ける。

4 キャベツ

(1)コナガ

発生程度： 並
予報の根拠

- 4月下旬の調査の結果、株当たり幼虫・蛹数は1.3頭(平年0.4頭)と平年並であった。
- 4月の合成性フェロモントラップへの誘殺数は14.4頭(前年4頭、平年50.1頭)と平年よりやや少なかった(豊見城市)。



防除上注意すべき事項

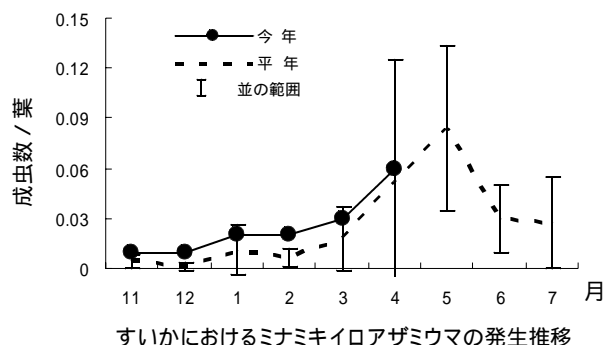
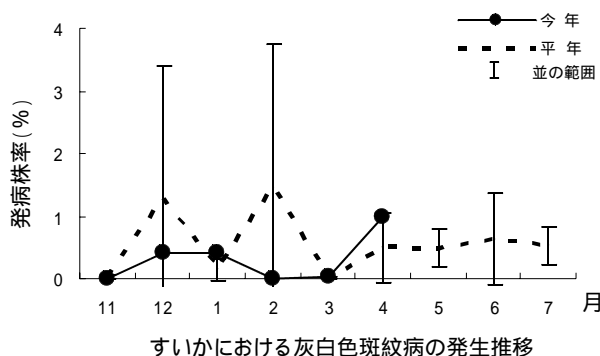
- 圃場周辺のアブラナ科雑草や収穫後の残渣は発生源となるので除去する。
- 薬剤散布は低密度時が効果的であるので、多発する前に散布を行う。
- 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

5 すいか

(1)灰白色斑紋病

発生程度： 並
予報の根拠

- 4月中・下旬の調査の結果、発病株率は1.0%(平年0.5%)と平年並であった。
- 本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの葉当たり成虫数は0.06頭(平年0.05頭)と平年並であった。



防除上注意すべき事項

- 発病株は伝染源になるので、見つけ次第抜き取り、ビニール袋に入れるなどして施設外へ持ち出し処分する。
- 残渣はミナミキイロアザミウマの発生源になるので、ビニール袋に入れるなどして施設外へ持ち出し処分する。
- 施設外に蔓や葉を露出させないように、すそのビニールは土に埋め、側窓の防虫ネットは固定する。
- 平成19年度病害虫発生予報第2号(本号)の表紙参照。

6 iga(施設)

ミナキイロアザミウマの防除対策

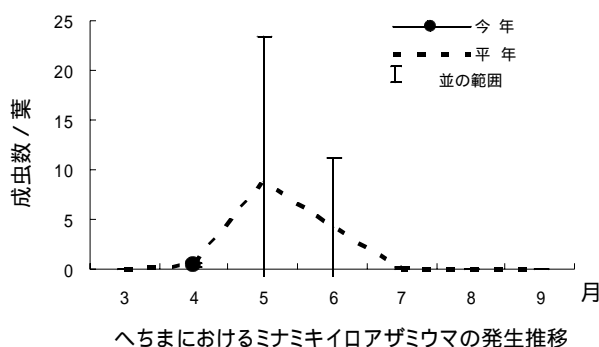
- 4月中旬の調査の結果、一部圃場で多発生が認められた。
- 今後、気温の上昇とともに発生が増加すると予想される。
- 成虫の飛来侵入を防ぐため、シルバーマルチの利用や入口に2重カーテンを設置する。
- 施設周辺の雑草は発生源となるので除草を行う。
- 摘葉等による残渣は本種の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして密閉し、施設外に持ち出し処分する。
- 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

7 hechi

(1)ミナキイロアザミウマ

発生程度：並
予報の根拠

- 4月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.3頭(前年0.3頭、平年0.4頭)と平年並であった。
- 今後、気温の上昇とともに発生が増加すると予想される。



防除上注意すべき事項

- 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- 圃場内外の雑草は発生源となるので除草を行う。
- 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

8 retasu

ハスモンヨトウの防除対策

- 4月下旬の調査の結果、株当たり幼虫数は0.03頭であった。また食害痕が多数見られる圃場が確認された。
- 4月の合成性フェロモントラップへの誘殺数は250頭(前年202頭、平年163頭)と平年よりやや多かった(那覇市)。
- 本種は、毎年5月と10月に増加する傾向がある。
- 産卵は、地上部付近の葉裏に主に行われる。卵塊は見つけたい捕殺する。
- 本種は広食性であり圃場周辺の雑草は発生源となるので除草を行う。
- 中齢以降の幼虫は薬剤の効果が高いことから、幼虫が若齢期の段階で防除を徹底する。

9 トマト(施設)

トマト黄化葉巻病の防除対策

- a 南部地域での4月中旬の調査の結果、本病の発生が認められ、発病圃場率は64% (11圃場中)であった。また、一部の圃場で多発生が認められた。
- b 施設内外の管理されていないトマトは、本病の感染源およびタバココナジラミの発生源となるため、見つけ次第除去する。
- c 栽培終了後は本病の媒介虫であるタバココナジラミ(シルバーリーフコナジラミ)を薬剤防除したうえでトマトを抜き取り、施設を2～3週間密閉して蒸し込み処理する。

詳しくは下記へお問い合わせ下さい



沖縄県病害虫防除技術センター

ホームページアドレス

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>

本 所	〒902-0072 那覇市字真地123 TEL 098-886-3880、098-886-0227 FAX 098-884-9119
北 部 駐 在	〒905-0012 名護市名護4605-3(農業研究センター名護支所内) TEL 0980-51-1537 FAX 0980-51-1538
宮 古 駐 在	〒906-0012 宮古島市平良字西里2071-40 TEL 0980-73-2634 FAX 0980-72-6474
八 重 山 駐 在	〒907-0003 石垣市平得地底原1178-6 TEL 0980-82-4933 FAX 0980-83-1157